

郷土の偉人 徳川家康公 作文コンクールを通して

タニザワフーズ株式会社
代表取締役社長

谷 澤 憲 良 氏



教育随想



平成24年5月1日

5月号

発行・編集
岡崎市教育委員会

今月の紙面

教育随想	1
タニザワフーズ株式会社 代表取締役社長 谷澤 憲良氏	
この人に聞く	2
ジャズヴォーカリスト 今岡 友美氏	
羅 針 盤	2
図工美術科指導員 米村 進	
ふれあい	3
小豆坂小 三浦 准子	
特 集	4
開校 岡崎市ホタル学校	
お知らせ	6
フォト・ヒストリー	8
第1回親と子の音楽のつどい (昭和53年)	
この本を	8

私どもは、徳川宗家と二十数年来の御縁をいただいております。この御縁を生かして、郷土のために、なんとか岡崎と宗家の橋渡しができないものかと考え、十年前の財団法人徳川記念財団（現在は公益財団法人）設立を機に、地元小中学生に向けた作文コンクールの企画をお持ちしました。御理解をたまわり、徳川家康公作文コンクールも、今年で九回を迎えることができました。

第一回目、当初の応募数を百五十作品と見込んでおりました。募集締め切りが迫ってきてもなかなか集まらず、心配しておりましたが、結果、応募数五四三作品と、予想を大きく上回るスタートとなりました。第五回から、応募数は七〇〇作品を上回り、昨年の第八回は八三八作品と、回を追うごとに応募は増えました。これまでの応募総数は五一七九作品と



なりました。作文の内容においても、素晴らしいと宗家からお褒めをいただいております。これもひとえに岡崎の教育の力と実感しております。

子供たちが、郷土の偉人家康公が成し遂げた平和な国作りを学ぶことによって、争いの絶えない今の世界において、日本の進む方向が見えてくるのではないかと考えております。

平和な争いのない国、同時に物を大切にした無駄のない循環社会（エコ社会）の確立や、相手を思いやり、共に生きていく暮らしのあり方等、

本当に多くのことが家康公を通して学べるものと思っております。そうしたことを学んでいく過程で、子供たちが郷土の偉人の偉大さを理解したとき、郷土愛が生まれ、ひいては国を愛する心が生まれるのではないのでしょうか。

我々岡崎人は、身近なところに多くを学ぶことができる題材をもつ、よい郷土に暮らしていることに感謝し、二十一世紀を担う人材を、岡崎より輩出することを願っております。

（たにざわ のりよし）

この人に聞く



ジャズの魅力

ジャズヴォーカリスト

今岡 友美 氏

待ち合わせの部屋に入ってきた今岡さんは、小柄でショートヘアの似合う女性だった。ホームページの写真やハスキーな歌声から、大人っぽい女性をイメージしていたのだが、どちらかというと少女っぽさの感じられる方だ。

「もともと歌うことが好きでした。会社勤めをしていたとき、仲間のバンドに育休の方がいて、そのピンチヒッターで歌ったのが人前で歌った最初です。その後、たまたま人に誘われて、岡崎でポップスバンドを組んで歌っているときに、突然声を掛けられました。ジャズをやってみないか、僕が応援するからと。最初は、あなたは誰、と思いました。」

声を掛けた人物は、「ドクタージャズ」こと内田修さんであった。人生の転機というのは、いつ訪れるのか分からないものである。

「それまでジャズを聞いたことがなく、しゃがれた声で、語るように歌う、大人の世界の歌というイメージでした。悲しいどよんとした感じがして、私にはそういう世界は向いていないし、表現できないなあと思っていました。」

これがきっかけとなって、ジャズのステージに立つようになった。「好きなように歌えばいいんだよ。頑張らなくていいから、楽しんでおいで」と内田さんに送り出され、終わつた後には「良かったよ」と励まされながら、何度も歌った。こうして次第にジャズにのめり込んでいった。

その魅力を尋ねてみた。「自由に演奏するのがジャズの魅力なんです。ジャズって常に固定のメンバーで演奏するわけではないのです。初めて会ったメンバーとでも演奏します。その場でのキャッチボー



ルみたいな感じですよ。バラードで歌いたいと言うと、イントロも書いてないのに始まるのです。だから、ライブに立つとき、歌う曲は決めていきます。その場の状況に合わせて決めます。どんなお客さんかなとか、今日のギターの音が素敵だからこういう曲を歌おうとか、お客さんにリクエストを聞いて歌うとか。大好きなミュージシャンと、その場で出会った人たちと作り上げ、味わうことに喜びがあるのです。」

二〇〇九年のCDデビュー以来、県内を中心に全国各地を飛び回りながら、毎月半分くらいステージに立ち、音楽活動をしている。

今後のことについて聞いてみた。「これからもずっと歌います。ひたすら一生懸命歌うというスタンスは変えずに。いい音楽をたくさん聴き、年を重ねるごとにいろんな表現方法を身につけてレベルアップしたいと思います。岡崎が大好きなので、岡崎の人たちに応援してもらいながら、地元で歌っていきます。この街のジャズ人口が増えればいいなあ、心から思っています。」

「岡崎ジャズストリート」が行われる秋までは到底待ちきれない。もっと早くにライブハウスに出掛け、ジャズを身近に感じてみたくなった。

氏 名 いまおか ともみ
住 所 岡崎市稲熊町

羅針盤



美術作品を通して

伝え合う鑑賞を

図工美術科指導員

米村 進

「幽霊みたいな感じがします。」

「どうして。」

「暗い雰囲気だから。」

「怖い感じがします。」

「どこから。」

「ここの細くなった首や目が怖く、死にそうな感じがするから。」

それぞれの発言を受けて「ああ、ああ」と納得の声を発する子供たち。

黒板いっぱい貼られた『ゲルニカ』(ピカソ・作)を見た小学校三年生の第一印象が語られた場面である。

A先生は、「な感じ」というイメージの根拠を問い返した。暗い色、細い首や怖い目の形という色や形からのイメージであることが、つながり、伝わったために、多くの子供たちが共感できたのである。

続いて、死んだ子供を抱いて号泣



仲間と創り上げた舞台

小豆坂小学校

三浦 准子

「今年の学芸会は、六年間の総まとめ、自分たちで創る学芸会です。」

二期期の初め、台本『夏休み』を渡しながら子供たちに伝えた。

「自分たちでアイデアを出し合い、自分たちで創り上げる、そんなことができるのか。」

と子供たちの表情は少し不安気だった。A男は特に不安そうであった。

A男は一学期の途中に転入してきたのだが、なかなか学級にとけ込めずにいた。いつも一人でいるA男に、学級の中の存在感を感じさせ、友達との一体感を味わわせたい。学級で創り上げていく学芸会は、そのいい機会であった。

劇『夏休み』の時代設定は戦時中である。小学校最後の夏休み、思い

出作りに肝試しを行おうと考えた六人は、七つ森に出掛ける。そこで出会ったのは、戦争で亡くなり、妖怪になってしまった子供たちであった。この劇で何を伝えたいのか、一人一人に思いをもたせるため、劇の主題について話し合った。「命の大切さ」や「夢をもつこと」、「戦争の恐ろしさ」など、様々な意見が出された。

その後、子供たちは自分たちで衣装や小道具について話し合い、提案してくるようになった。舞台での動きも、同じ場面の登場人物同士で考え始め、話し合う姿が見られた。

ところが、A男たち「傘化け」のグループだけは一向に動きが見られない。何とか衣装までは決まったのだが、舞台での動きがまるでできない。A男たちの登場する場面になると、劇の流れが止まってしまいうような印象を受けた。

そこで、第二幕の子供たち全員に、どこを変えたらよくなると思うか尋ねた。

「傘を動かしたらいい。」

「台を使って高さを出すといい。」

次々と意見が出された。B男はA男に話しかけ、動きを教えるようになった。これをきっかけに、なかなか

か動き出せなかったA男が変わってきた。

「先生、戦争中だから、この傘ぼろぼろにした方が感じがでるかなあ。」初めて、A男が自分から考えを伝えてきた。A男が学級になじむチャンスだと考え、

「傘化け役の子に提案したらどう。」と話した。A男が傘化け役の子に伝えると、みんなが賛成し、わざと傘をハサミで切ってぼろぼろにした。

A男は休み時間も使って、小道具作り必死に取り組みだした。その様子を見ていたC男が、何も言わずに傘作りの手伝いを始めた。クラスになじめなかったA男の周りに、少しずつ友達が集まり始めた。

傘が完成し、いよいよ学芸会本番。こだわって作った傘を手に、A男は仲間と創り上げた舞台に立った。

幕が下りたとき、

仲間と肩を組んだ

A男は、満足気な笑顔を見せていた。



する母親、暴れる馬、戦い敗れた兵士などに注目させ、「悲鳴」や「ガシヤン、ガシヤン」という音も感じ取らせた。『ゲルニカ』は、三年生にとって、発達段階的にやや難しい作品であったが、その本質に迫る豊かな感性が見られた。

後半は、アートカード(名古屋市美術館・作)を使ったゲームが展開された。「親」になった子供が、十枚のカード(美術館の作品が印刷されている)の中から一つを選び、「熱くて、とがった感じ」とヒントを出し、他の子供たちがそのイメージに合う作品を当てるものである。色や形からのイメージを考えた前半の学習が生かされ、大変楽しく取り組めた。

新学習指導要領における鑑賞のポイントは、三つである。我が国や諸外国の作品、暮らしの中の作品を積極的に取り上げ、よさや美しさを感じ取りさせること。言語活動を重視してコミュニケーションの力を育てること。表現の活動にも共通する、形や色をとらえ、それらを基にして豊かなイメージを育てること。A先生は、これらに加えて美術館との連携を図る授業を提案した。

これからは、表現だけでなく鑑賞の場を充実させ、伝え合うことを通して豊かな造形感覚を育てたい。

開校 岡崎市ホタル学校



ホタル学校校章



～豊かな自然が残る里山での環境学習～

四月一日、旧鳥川小学校の施設を生かして、岡崎市環境部が運営する岡崎市ホタル学校が開校した。

岡崎市のホタル保護活動の歴史は、戦前にさかのぼる。美合町生田地区は、古くから「生田螢」と呼ばれるゲンジボタルの生息地として知られ、昭和十年には「岡崎ゲンジボタル発生地」として国の天然記念物に指定。さらに、昭和四十七年には河合地区が追加指定された。現在は、額田地区全域に生息するゲンジボタルが市の天然記念物の指定を受けている。

鳥川地域は、ゲンジボタルが自然発生して乱舞する自然の豊かな里山で、「鳥川ホタルの里」として地域住民に親しまれている。これまで、清らかな自然環境を保全するため、旧鳥川小学校の児童や地元の鳥川ホタル保存会の会員らの手により、ホタルの保護活動をはじめ、水環境の保全、森林整備等が行われてきた。

平成二十二年三月、鳥川小学校が閉校した。そして、旧鳥川小の施設を、市全体のホタル保護の取組みの拠点とするよう、児童や保存会会員らの協力を得て整備が進められてきた。

館内は、ホタルに関する資料や模型といった博物館的な内容だけにとどまらない。ホタルの保護活動を支援し、活動の拠点となるホタル飼育室や交流室、環境学習の拠点となるホタル教室や多目的ルーム、山歩きをした利用者の休憩所としてのサポーター室などが整備されている。また、小学校の校舎を再利用しているため、多くの市民が共有している、小学校に対する懐かしい記憶がよみがえり、集いやすく、開放的な空間となっている。

多くの人に守られているホタルが、今後更に増え、この施設が、未来の子供たちにホタルの舞う風景を残していく活動の拠点として、有効に利用されることが期待されている。



アクセス
岡崎ICから
車で40分



岡崎市ホタル学校

住所 岡崎市鳥川町字小デノ沢5番地1
電話 82-3027

http://www.morinoeki.jp/hotaru_gakkou

開館時間 9時～17時(月曜休館)

※6月は9時～21時

利用についての問い合わせ 自然共生課 23-6921

旧鳥川小児童(現額田中一年生徒)の声
 私は、自分がいた学校が生まれ変わるのだから良い学校にしよう、一生懸命に取り組んできました。岡崎市の自然共生課の方といっしょに「ホタルにとって住みやすい町作り」について考えました。その中から、まずはスタンプラリーを具体化しようということで、クイズやスタンプの案をたくさん作りしました。そして、二月にはホタル学校の壁画をみんなで完成させました。これからホタル学校にたくさんのお客さんが来てくれるとうれしく思います。



多目的ルーム
 環境学習やワークショップなど多目的に使用できる空間。大型テレビもある。



ホタル教室③
 岡崎市内における源氏ホタルの保護活動を紹介している。



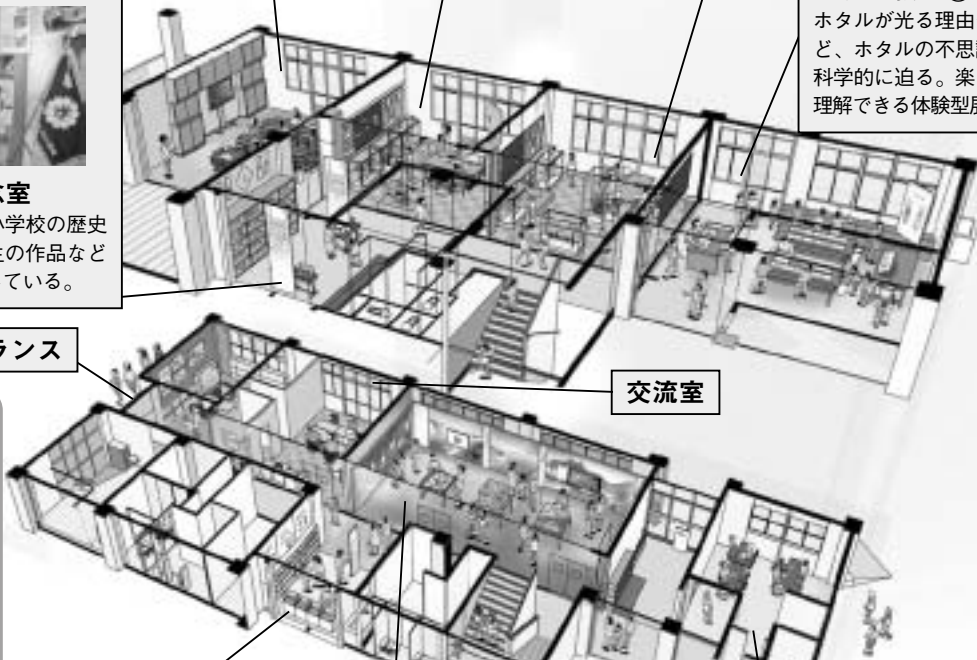
ホタル教室②
 ホタルと人との関わりを紹介している。



ホタル教室①
 ホタルが光る理由や仕組みなど、ホタルの不思議について科学的に迫る。楽しみながら理解できる体験型展示がある。



鳥川小学校記念室
 閉校になった鳥川小学校の歴史を、パネルや卒業生の作品などを交えながら紹介している。



エントランス

交流室

鳥川ホタル保存会会長 今泉 清氏
 閉校になった鳥川小学校を再利用していただき、地元の保存会、地域の住民は元気が出て、大変うれしい気持ちです。ホタルを通して、環境保全意識を高めてほしいと思います。自然に親しみ、環境教育の場として、多くの市民の皆さんに来ていただき、ご指導ご助言をいただき、ホタル学校を盛り上げていただきたい。



ホタル飼育室
 ホタルの幼虫、カワニナを通年飼育する施設。ホタルの幼虫を間近に見ることができる。



ホタルの里
 森、川、海、それぞれの自然がつながりを持って存在していることを紹介し、ホタルが生育できる環境がどのようなものかを伝える展示がある。



サポーター室
 山歩き来訪者の休憩場所として活用する。



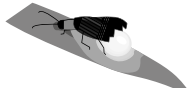
岡崎市ホタル学校名誉校長 古田忠久氏
 岡崎市で初めてゲンジボタルを飼育・放流された美合町の栗田俊一郎氏の業績をたたえ、このホタル学校が、ホタルを始め自然保護の拠点になつてもらえることを願っています。ぜひとも、市内小中学生がホタル学校を訪れて、環境教育、環境学習を体験してほしいと思います。

千匹を超えるホタルの乱舞を見に行くには
 見頃は……

6月の、風のあまり吹いていない、蒸し暑いとき
 日没後から午後9時頃

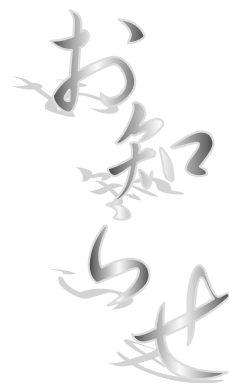
マナー違反

懐中電灯などの明かり (ホタルは明かりを嫌う)
 虫除けスプレーや蚊取り線香、タバコ
 ホタルの持ち帰り



鳥川の自然を生かした
体験学習プログラム

- ・山歩き(自然体験)
- ・旧跡巡り(石仏・猪垣など)
- ・加茂式黒炭体験(炭焼き)
- ・ホタルの幼虫観察
- ・荒神木巡り(家の守り神)
- ※その他、フィールドワークの拠点として利用できる。



● ESDの充実

本年度の重点は以下のとおりである。学校での研究実践の充実が期待される。

- (1) 学校全体を運営するなかで、ESDを位置づけるために、これまでのカリキュラムや教育内容をESDの視点でとらえ直し、求める能力や態度を明らかにして実践していくこと
- (2) 自然の中での活動、職場体験など、様々な体験活動などを促し、子供の見方や考え方を広め深められるようし、学びを広い見地からとらえさせ、実践力や行動力へと結びつけていくこと
- (3) ESDとしての岡崎の教育の三本柱「英語教育」「環境教育」「岡崎の心の醸成」の実践のあり方を明確にすると

● 教科書採択

もに、三本柱相互、または、三本柱と教科領域、行事とを関連させた実践を進めること

○教科書改訂予定

小・中学校ともに、新しい教科書を使用している。次の教科書採択は、小学校が平成二十六年、中学校は平成二十七年の予定である。使用開始は、それぞれ採択の次の年になる。現教科書は、今年度を含め、小学校は三年、中学校は四年使用される予定である。

○教科書展示会の開催

教科書展示会が、県内二十か所の教科書センターで開催される。

県教育委員会では、教科書採択の調査研究に役立てると

ともに、県民の教科書に対する理解や関心を深めるために、教科書展示会を開催する。なお、障がいのある児童・生徒のための教科書や一般図書については、愛知県総合教育センターで展示する。

岡崎地区の教科書センターは、岡崎市中央図書館にある。展示会も中央図書館で行われる。展示会場には投書箱が用意されており、教科書に対する意見や要望を投書することができる。教科書について、広く意見を聞く場となる。

○本年度使用の教科書

小学校は昨年度より平成二十二年度に採択された新しい教科書を使用していて、今年

度で二年目となる。

中学校は、平成二十三年度に採択された新しい教科書の使用が今年度から始まった。

● 表彰

◆第29回全国小中学生作品コンクール

入選 竜海中一年 林 貴之
入選 竜海中一年 鳥居 智香

◆平成23年度愛知県アンサンブルコンテスト大会

クラリネット八重奏 金賞 竜海中学校
サクソフォン四重奏 銀賞 竜海中学校

金管八重奏 銀賞 竜海中学校

◆第24回管楽器個人・重奏コンテスト愛知県大会

クラリネット八重奏 優秀賞 竜海中学校
打楽器五重奏 優良賞 竜海中学校

ユーフォニアム独奏 優良賞 竜海中二年 大岩明日香

◆第12回 東海ブロック中学生バレーボール新人大会

男子の部 三位 六ツ美中学校

● 平成二十四年度校長会役員

△小中学校長会役員△

会長 小林 義孝(三島小)
副会長 二瓶 千秋(梅園小)

高橋 鏡二(竜南中)
石川 守彦(美川中)

会計監査 夏目 恒男(矢作北小)
権田 隆志(新香山中)

庶務 板倉 登(竜美丘小)
稲垣 幸一(北中)

庶務補佐 稲吉 治(岩津中)
太田 恭子(連尺小)

会計 野田 光宏(竜海中)
増澤 徹(岡崎小)

会計補佐 白井 直美(本宿小)
石川 昌幸(常磐小)

評議員 鳥居 弘子(緑丘小)
河合美智代(生平小)

市川 松男(秦梨小)
木島 節男(岩津小)

平木 教男(下山小)
天野 道晴(大樹寺小)

山田 禮子(根石小)
内田 幹也(六名小)

塩澤 順治(福岡中)
海藤 茂実(東海中)

内田 義和(葵中)
近藤 博之(矢作中)

伊藤 直也(城北中)
高橋 淳(甲山中)

＜小学校長会＞

会長 二瓶 千秋(梅園小)

副会長 夏目 恒男(矢作北小)

会計監査 白井 直美(本宿小)

庶務 石川 昌幸(常磐小)

会計 市川 松男(秦梨小)

会計補佐 山田 禮子(根石小)

内田 幹也(六名小)

＜中学校長会＞

会長 高橋 鏡二(竜南中)

副会長 石川 守彦(美川中)

権田 隆志(新香山中)

会計監査 稲吉 治(岩津中)

庶務 塩澤 順治(福岡中)

会計 内田 義和(葵 中)

会計補佐 近藤 博之(矢作中)

＜専門委員会＞

法制 近藤 博之(矢作中)

教育条件 伊藤 直也(城北中)

学校経営 稲吉 治(岩津中)

進路 柵木 智幸(六ツ美北中)

保体 海藤 茂実(東海中)

福安 市川 松男(秦梨小)

給食 鈴木 尚子(河合中)

生徒指導 高橋 淳(甲山中)

特別支援 山口 和雄(矢作南小)

広報 山田 禮子(根石小)

●平成二十四年度特別委員会

特別委員会、平成二十四年度

は以下の十二委員会を置き、岡

崎市の教育活動の充実・発展を図る。

・市民大学運営委員会

長 太田 恭子(連尺小)

副 永田 勲(羽根小)

・月報「岡崎の教育」編集委員会

長 山田 禮子(根石小)

副 伊豫田 守(愛宕小)

・教員の研修に関する委員会

長 藤井 哲也(美合小)

副 荻野 卓寛(北野小)

・学校環境緑化推進委員会

長 本田 浩登(上地小)

副 鈴木 武(細川小)

・郷土読本編集委員会

長 増澤 徹(岡崎小)

副 内田 尚之(常磐東小)

・授業改善委員会

長 水野 昌孝(南中)

副 丸尾 光司(常磐南小)

・英語が話せるおかざきっ子研究委員会

長 白井 直美(本宿小)

副 柵木 智幸(六ツ美北中)

・学校評価委員会

長 稲垣 幸一(北中)

副 山本 満夫(六ツ美南小)

・環境教育研究委員会

長 内田 義和(葵中)

副 内田 幹也(六名小)

・外国人児童生徒教育推進委員会

長 金指由香里(城南小)

・教員免許更新特別委員会

長 中村 公治(竜谷小)

・子ども科学館設立委員会

長 安藤 直哉(男川小)

その他の関係委員会等

・岡崎市就学指導委員会

長 高橋 鏡二(竜南中)

副 栗田万砂夫(矢作東小)

・岡崎市特別支援教育連携協議会

副会長 山口 和雄(矢作南小)

委員 澤田 祥明(六ツ美北小)

・岡崎市いじめ・不登校対策協議会

長 高橋 淳(甲山中)

副 都筑 祐一(大門小)

●平成二十四年度研究発表校

今年度の研究発表校は、市

委嘱が三校、自主発表校が二

校である。また、県へき地教

育研究愛知大会を一校、全国

授業公開を一校が行う。

○恵田小学校 市委嘱

十月十日(水)

「自ら進んで学び続ける子の

育成〜家庭と連携した学習ノ

ートの活用を通して〜」

○大樹寺小学校 市委嘱

十月十七日(水)

「郷土に誇りをもって、新し

い未来を切り拓く大樹寺っ子

の育成〜自立の心を育む『家

康学習』を通して〜」

○新香山中学校 市委嘱

十一月十四日(水)

「環境を見つめ、考え、働きか

ける生徒の育成 ―環境学習

を基盤としたESDの展開―

○生平小学校 自主

二月二十五日(月)

「自然に働きかけ、感じ追究

し続ける子供の育成〜ふるさ

と学習の創造と展開―

※紙上発表

○竜海中学校 自主

十一月二十日(火)

「わかる学習指導」第十次

研究 「自ら学び、表出する

生徒の育成 ―教科学習を中

心に―

○下山小学校 東海北陸地区

へき地教育研究愛知大会

十月二十六日(金)

「確かな学力を身につけ、表

現力豊かな下山っ子 ―スピ

ーチ、読書・ことばタイムと

国語科の授業を中心に、『伝

え合う力』を培う〜」

○本宿小学校 全国授業公開

十一月二日(金)

●平成二十四年度学校訪問

◆岡崎市教育委員学校訪問

・夏山小学校 5月14日

・六ツ美北中学校 5月24日

・緑丘小学校 6月14日

・城南小学校 6月25日

・藤川小学校 9月10日

・梅園幼稚園 9月24日

・岩津中学校 10月11日

・六ツ美北小学校 11月5日

・美川中学校 11月19日

・竜美丘小学校 1月21日

・山中小学校 1月31日

◆指導員合同訪問

・常磐南小学校 6月21日

・新香山中学校 6月21日

・六ツ美中部小学校 11月22日

・常磐中学校 11月22日

※その他に主事訪問を予定



・カ
ツ
ト
六名小
滋野井 貴子

第1回親と子の音楽のつどい (昭和53年)

写真提供：根石小学校

昭和五十三年八月、PTA主催の第一回「親と子の音楽のつどい」が開催された。残暑厳しい八月末、幾分涼しくなった夕刻五時から、東公園屋外ステージで開催されたときの写真である。学校の体育館から椅子を運び、グラウンドに並べて会場を作った。出演は、学校のトランペット部、合唱部、PTA音楽グループと岡崎音楽吹奏楽団などで、学区の住民をはじめ、関係者千人余りの聴衆が集まった。

以後三十四年間、毎年夏にPTA主催で開催されている。会場は、学校の体育館を経て、現在はせきれいホールで開催され、会場に入りきれないほどの聴衆が集まる。学校だけでなく、学区のイベントにもなっており、子供、保護者、学校、地域をつなぐ大切な行事となっている。



「**オアシス**」
 岡崎市ホテル学校が開校した。ホテルはきれいな水でないと言われ、住めるのは、人間が生活している里近くの川である。ホテルを守っていく活動は、自然界における命のつながりを教えてくれる。多くの人に守られた千匹のホテルが乱舞する夜を、今年を楽しみたい。

「**シオ**」
 葛蒲は、サトイモ科の水辺に生える多年草。葉は細長く、強い香りがある。古くから邪気を払うと言われ、端午の節句に軒に差したり、風呂に入れたりする。五月は季節の変わり目。これから暑くなる季節に向け、古来から伝わる年中行事、葛蒲湯で英気を養いたいものである。

「**ア**」
 『アメーzingグレイス』や『悲しい酒』と様々な曲を歌い上げる今岡さん。出会った人たちと作り上げるのがジャズであり、同じ曲でもテンポも色もにおも違うのだそうだ。まだライブで聴いていないことが、もったいなく思えてきた。

「**ス**」
 ライブハウスに出掛けてみようかな、女房でも誘って。

スケッチに夢中になる子供たち。写生会や絵を描く会の行事で、対象としつくり対峙して筆を走らす子供たちの姿を見ることができる。作品も十人十色、子供たちの人柄が作品にもよく表れる。

行事を通して、子供たちの成長へとつなげていきたい。

この本を

- * 3. 11 死神に突き飛ばされる
加藤 典洋
岩波書店 ￥1,260
- * 世界を変えた10冊の本
池上 彰
文藝春秋 ￥1,400
- * 放射線のひみつ
中川 恵一
朝日出版社 ￥945
- * 簡素が、いちばん！
橋田壽賀子
大和書房 ￥1,470
- * ハーバードの人生を変える授業
タル・ベン・シャハー著 成瀬まゆみ訳
大和書房 ￥1,680
世界最高学府のハーバード大学での授業エッセンスを52講にまとめ、理論と行動計画が示されている。授業内容は、人がよりよく生きるとはどういうことかを真正面から研究する「ポジティブ心理学」。実践していくと、自分の生き方を振り返り、明日からの生活に積極的に挑む気力をもらう。お陰で、これまで何度も挫折して成し遂げられなかったことが、今、習慣化しつつある。自分を変える喜びを味わえた本であった。
河合中 鈴木 尚子